

(インドネシア) - 3 件

1. インドネシア国際地熱会議(IIGCE)、2019年8月開催  
2019年5月15日



(写真:API 会長プリジャンダル・エフェンディ(Prijandaru Effendi)氏)

新再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)は、インドネシア地熱協会(API:Asosiasi Panas Bumi Indonesia)と共同で、第7回インドネシア国際地熱会議(IIGCE)を2019年8月13日～15日の日程で、ジャカルタ・コンベンションセンター(JCC:Jakarta Convention Center)にて開催する。

当会議は、毎年ジャカルタで開催されており、今年のテーマは「Making Geothermal the Energy of Today」となった。エネルギー安全保障やパリ協定の実現には再生可能エネルギーの開発が重要であり、特に地熱開発を短期間に推進する必要があるとインドネシア地熱協会プリジャンダル・エフェンディ会長は述べた。

IIGCEはコンベンション&エキシビション形式だが、同時に地熱専門家による年次技術会議と並行して開催されている。技術会議は19年間続いており、コンベンション&エキシビション形式7年目となる今年は、ビジネスの側面から幅広い議論を展開し、インドネシアの地熱開発の勢いを維持することを共通の目標にすると第7回IIGCE実行委員長のポールEムスタキム(Paul E. Mustakim)氏は抱負を述べた。

また、新再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)のF.X. スチジャストト(F.X. Sutijastoto)総局長は次のように述べた。インドネシアの経済発展にとって地熱開発は非常に戦略的な役割を果たしており、50%を輸入に頼っている化石燃料の代替となる解決策の1つとなっている。地熱開発のもう1つの戦略的側面は、世界でも有望な資源がインドネシアにあるということである。地熱エネルギーに正しい価格政策を実行できれば、地熱は世界のエネルギー開発の変動に影響を受けることはない。第7回IIGCEを開催することで、地熱分野におけるステークホルダーによる様々なイニシアチブに対する認識を高めることが可能である。また、

IIGCE のセッションを通じて、政府とビジネス界との共同作業で飛躍的な進歩を見だし、コミュニケーションを円滑にし、インドネシアの地熱問題解決につながることを期待される。

(出典: 新再生可能エネルギー・省エネルギー総局 (EBTKE))

## 2. 地熱開発ロードマップ(2019-2030)

2019年5月15日



エネルギー鉱物資源省 (ESDM) は、関連するステークホルダーと共同で、2019 年から 2030 年にかけてのインドネシアの地熱開発ロードマップを作成し、再生可能エネルギー (EBT) 開発と国家エネルギーミックスの目標達成を目指している。国家エネルギー計画 (RUEN) 及びエネルギーミックス目標によると、地熱エネルギーの目標は 7,241.5 MW である。

地熱開発ロードマップの作成責任者である新再生可能エネルギー・省エネルギー総局 (EBTKE) F.X. スチジャスト総局長は 14 日、ジャカルタで開催された地熱開発ロードマップ会議にて次のように述べた。地熱開発には経済的価値だけではなく、二酸化炭素排出量の削減の価値がある。したがって、地熱ロードマップの作成は、すべての関係者を巻き込むことによって、技術評価、経済評価、および各地熱発電所 (PLTP) プロジェクトタイムラインから確実に実行されるだろう。そのためには、既存のプロジェクトの商業生産日 (COD) と生産計画の目標値を示す必要がある。

地熱開発ロードマップは、2019 年 4 月 12 日より、エネルギー鉱物資源省 (EBTKE 総局及び電力総局)、国営電力会社 PLN、地熱開発会社、インドネシア地熱協会 (API) から構成された作業部会 (フォーカスグループディスカッション: FGD) を通じて、①資源と技術評価、②ファイナンスと経済性評価、③レギュレーション、ライセンス、インセンティブ評価と他機関との連携、④地域社会と社会問題評価の 4 つのテーマに分かれて議論が開始された。

(出典: 新再生可能エネルギー・省エネルギー総局 (EBTKE))

## 3. ルムット・バライ地熱発電所第 1 号機、2019 年 7 月稼働

2019年5月20日

南スマトラ州のルムット・バライ (Lumut Balai PLTP) 地熱発電所第 1 号機 (55MW) が 2019 年 7 月に稼働する。20 日付のビジネス・インドネシア紙 (24 面) が報じた。プルタミナ・ジオサーマ

ル・エナジー (PGE) のアリ・ムンダキル (Ali Mundakir) 社長は、ルムット・バライ地熱発電が稼働すると、PGE が保有する地熱発電所の合計出力が 617MW に拡大すると発表した。PGE が保有する地熱発電所は、①西ジャワ州カモジャン地熱発電所 (235MW)、②北スラウェシ州ラヘンドン地熱発電所 (120MW)、③ランブン州ウルベル地熱発電所 (220MW)、北スマトラ州シバヤック地熱発電所 (12MW)、④西ジャワ州カラハ地熱発電所 (30MW)。

ルムット・バライ地熱発電所第 1 号機は、海拔 1,600m の厳しい条件下での建設だったが、現在進捗率が 99% に達しており、6 月半ばに試運転を開始する。第 1 号機稼働後、第 2 号機 (50MW) の建設に着手する予定。年内に設計・調達・建設 (EPC) 業者の入札を実施予定。

エネルギー鉱物資源省 (ESDM) は、2019 年に 3 か所で地熱発電 (PLTP) が稼働すると発表した。①ムアララボ地熱発電所第 1 号機 (80MW)、②ソリック・ムラピ地熱発電所第 1 号機 (45MW)、③ソコリア地熱発電所第 1 号機 (5MW)

(出典:5 月 20 日付 ビスニス・インドネシア紙 24 面)